

## 小樽市住宅エコリフォーム助成の改正について

- 平成28年度から実施している住宅エコリフォーム助成について、ゼロカーボンの取り組みを推進するため、国\*<sup>1</sup>や北海道\*<sup>2</sup>の補助事業を活用し、制度内容の拡充を図り運用する。

\*1：住宅・建築物省エネ改修推進事業（社会資本整備総合交付金）  
\*2：住まいのゼロカーボン化推進事業

### 【改正の概要】

凡例：(赤字) 現行エコ助成からの改正部分

主な改正項目	現行の住宅エコリフォーム助成	改正住宅エコリフォーム助成	備考
対象工事 (a) (b) (c) (d)	<p>(a) 開口部の断熱改修【任意工事】</p> <p>(b) 外壁等の断熱改修【任意工事】</p> <p>(c) 省エネ設備機器の設置【任意工事】</p> <p>①太陽熱利用システム</p> <p>②ヒートポンプ給湯機（エコキュート）</p> <p>③潜熱回収型ガス給湯機（エコウォース*）</p> <p>④潜熱回収型石油給湯機（エコフィール）</p> <p>⑤ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機</p> <p>⑥コージェネレーション設備</p>	<p>(a) 開口部の断熱改修【<b>必須工事（複数箇所）</b>】</p> <p>(b) 外壁等の断熱改修【任意工事】</p> <p>(c) 省エネ設備機器の設置【任意工事】</p> <p>左記①～⑥の省エネ設備機器</p> <p><b>⑦燃料電池システム（エネファーム）</b></p> <p><b>⑧蓄電池</b></p> <p><b>⑨高断熱浴槽</b></p> <p><b>⑩節湯水栓</b></p> <p><b>⑪LED照明(工事を伴うもの)</b></p> <p><b>⑫節水型トイレ</b></p> <p><b>⑬空気清浄機能・換気機能付きエアコン（寒冷地仕様）</b></p>	<p>必須工事は国の補助要件</p> <p>⑫, ⑬は国の補助の対象設備ではないが、市独自に対象設備に追加</p>
		<p>(d) 太陽光発電設備の設置【任意工事】</p>	<p>(d) は国の補助の対象設備ではないが継続実施</p>
助成額 (助成率) (助成限度額)	<p>(イ) 省エネ基準 対象工事(a) (b) (c) (d)の工事費合計の <b>助成率10%、限度額30万円</b></p>	<p>(イ) 省エネ基準 対象工事(a) (b) (c) (d)の工事費合計の <b>助成率40%、限度額40万円</b></p>	<p>国の補助要件限度額30万円に市独自に10万円を加算</p>
	<p>(ZEH水準の定めなし)</p> <p>〔ZEH（ゼッチ）水準〕 net Zero Energy House の略。 建物の高断熱化を図るとともに、 省エネ型設備を導入し、省エネ基準より一次エネルギー消費量を20%以上削減する基準</p>	<p>(ロ) ZEH水準（省エネ性能が更に高い基準） 対象工事(a) (b) (c) (d)の工事費合計の <b>助成率80%、限度額70万円</b></p> <p>* 若者夫婦世帯（所有者が40歳未満）や子育て世帯（18歳未満の子が同居）は、 <b>限度額を+15万円加算</b></p> <p>・「省エネ基準」 <b>限度額 55万円</b></p> <p>・「ZEH水準」 <b>限度額 85万円</b></p>	<p>ZEH水準は国の補助要件と同様</p> <p>若者夫婦、子育て世帯は市独自に限度額を15万円加算</p>
工事費下限	対象工事費合計50万円以上	定めなし（撤廃）	
所得制限	前年の所得額550万円以下	定めなし（撤廃）	
住宅の耐震性	定めなし	<b>耐震性を有する住宅が対象</b> <b>（昭和56(1981)年6月以降の着工等）</b>	耐震性は国の補助要件
省エネ設計	助成対象外	<b>助成対象（工事費に含める）</b>	

### 【助成の決定及び工事期限】

- ・ 先着順（予算額に達した時点で受付を終了）
- ・ 完了届を令和7年1月31日までに提出